



## 平成29年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

事務長 貝瀬 由明

「平成29年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会」が、5月18日、19日の両日、新緑薫る北海道旭川市のアートホテル旭川で開催され、当センターから大島院長、釜看護科長、事務長の3名が参加しました。

本協議会は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が主催し、重症心身障害者施設の運営上の諸課題について協議を行い、もって重症心身障害児者福祉の向上を図ることを目的に、毎年度開催される会議で、今年度は、北海道ブロックの北海道療育園が当番施設となり、全国126施設の理事長、施設長、看護部長など、約400名が参加しました。

初日は、開会式に引き続き、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室の室長補佐より「障害児支援施策の動向」について行政説明があり、その後、社会福祉法人北海道療育園理事長岡田喜篤氏より「重症心身障害者福祉とその施設のあり方」と題して、特別講演がありました。昼食をはさんで午後には「入所施設のこれからのあり方を考える」をテーマに、全国6施設の施設長などによるシンポジウムが行われ、各地域における課題や新たな取組の状況が紹介されました。

二日目、午前には協会の組織である9つの専門委員会、部会からの活動報告とそれに対する質疑及び意見交換などが行われた後、次回の開催について、平成30年5月22日、23日の予定で兵庫県神戸市において開催されることが報告され、閉会しました。

午後は、旭川市内からバスで30分程のところにある北海道療育園を視察しました。当該施設は、敷地面積約12万3,000㎡に建つ336床(医療型障害児入所施設、療養介護、短期入所(6床))の施設であり、広大な敷地と恵まれた環境の中で様々な利用者サービスを積極的に取り組んでいるところが大きな特徴でした。



協会ホームページURL:  
<http://www.zyuusin1512.or.jp/>  
北海道療育園ホームページURL:  
<http://www.hokuryo.or.jp/>

## 看護の日

看護の日実行委員 今田 ひろみ

明け方より小雨が降っていたため、開始時間まで雨が残るのではないかと心配されましたが、5月10日はほとんど移動に困難を来たすことなくイベントが進行でき、実行委員は朝から皆様を無事お迎えすることができました。

今年度のイベントのテーマは「療育の心をみんなの心に」。内容は例年の「健康チェック」のほか「リフト・車椅子体験」「皆でやろうエビカニ体操」です。入り口でシールを貼って入場していただき、元気な体操のBGMを流し、体験コーナーには関連の情報ポスターを掲載することなどにより五感で参加者が楽しめるような工夫をしました。

健康チェックコーナーでは、血圧測定とSpO<sub>2</sub>測定（酸素飽和度）骨密度測定など医師の協力も頂き実施できました。骨密度測定では「普段計ったことがないのでよい経験になった」との言葉も多数ありました。血圧測定ではご家族の方から「普段血圧が高いけどどうすればよいか」と相談されたり、SpO<sub>2</sub>測定では病棟であまり測定した事がない利用者の方たちが測定されていました。

体験コーナーでは、リフト体験や車椅子体験をご家族だけでなく職員も体験していました。体位保持装置の仮あわせのビーズ枕など初めて体験する方もあり、興味を持っていただきました。普段利用者が使用しているものばかりでしたが、実際体験した事で、より操作などに注意することの大切さ、安全への意識を実感したとの感想をいただきました。利用者の方は昨年も好評だったリズム体操で病棟の枠を超えた仲間として元気に笑顔で参加することができました。

参加者数は利用者をご家族、職員で223名を超え、大盛況のうちに終了しました。これもひとえにご家族や職員の皆様方のご協力のおかげだと思っております。深く感謝いたします。



## どうぶつとふれあう会

看護科 吉山 のり子

平成29年4月26日（水）に第1回の活動を実施しました。

利用者は23名、ボランティア13名、犬が11頭、家族・職員44名の参加があり、賑やかに楽しむことができました。今回は会場にこいのぼりが泳ぎ、ボランティアが かぶと や ミニこいのぼり をまわっていてと季節を感じることができました。

利用者は、小型犬を膝の上ののせてさわったり、犬のパフォーマンスを見たりと、犬とふれあうことで普段以上の楽しそうな笑顔がみられました。活動後、写真を見ながら「楽しかったね」と会話が弾んでいました。参加されたご家族からは「楽しい活動ですね」と好評でした。今年度は、9月、11月、2月に活動を予定しています。



## 社会見学 「藤子・F・不二雄ミュージアム」

通所 癸生川 傳恵

5月11日、通所では第二回社会見学の日でした。利用者、保護者と職員、合わせて9名で「藤子・F・不二雄ミュージアム」へ行ってきました。

現在公開中の「ドラえもん名作原画展」を、もしもしデンワと共に説明を聞きながら、原画や動画をゆっくり鑑賞しました。先生の執筆部屋もあり、高〜い本棚の中に沢山の資料となる本がぎっしりありました！「すごいよね〜」と皆で見上げつつ、2階の展示室へ行きました。沢山のキャラクター達を見たあと、部屋の外には素敵な男の子が！！「きこりの泉」に入って綺麗になったジャイアンでした。そんなジャイアンの姿に驚いている利用者もいました。

そして一行はレストランへ行きました。「四次元ポケットプレート」や「どら焼きシフォン」等、ユニークで可愛いメニューが並んでいました。「かわいい〜！」「崩したくない〜」などと言いながら、それぞれを堪能・・・利用者は、アイスが美味しくておかわりの要求があったり、美味しい顔で写真に納まったりしていました。

庭に出ると「どこでもドア」や、のび太達が良く遊ぶ空地にある土管があったり、その他、ミニシアターも堪能しました。最後はお土産をみて帰路につきました。

藤子・F・不二雄先生の世界は夢があって、癒しを与えてくれる空間でした。みなさんそれぞれに、楽しい思い出を作ることができたようです。



どら焼きシフォン

四次元ポケットプレート



## テーマ別改善運動の取り組みが雑誌に掲載されました

3-1病棟 看護師 関口 美緒

平成27年度テーマ別改善運動で取り組んだ「みんなで防ごう！耐性菌—防護用具ワゴンの整備と情報共有システムの構築を実施して—」が産労総合研究所から発行されている病院羅針盤という医療経営に関する雑誌に掲載されました。

平成27年度のテーマ別改善運動にて、私たち業務改善運動チームは、感染予防に関する2つの取り組みを行いました。

まず1つ目の取り組みは、利便性の向上や作業効率の改善を目的とした感染防護用具用のワゴンの整備です。普段の看護実践の中で感染対応を行うにあたり、使い捨てのガウンや手袋などの感染防護用具を使用しなければなりません。病棟内には十分な設置スペースがないことから、ベッドサイドにワゴンを配置し、感染防護用具の設置に使用していました。しかし、これらのワゴンは統一されておらず、非常に使用しにくい状態でありました。そこで、感染防護用具を使用しやすいようワゴンの種類を統一し、ワゴン上に置かれた物品の整備を行いました。

2つ目の取り組みは、適切な場面での感染対応と利用者のQOL向上を目的とした耐性菌保菌者を把握するための情報共有システムの構築です。療育センターの特色として、年間を通して様々なイベントが開催され、その際、外部からゲストを招くことがあります。また、そのようなイベントには他病棟から多くの人が集まってくることもあります。これらの場面において、保菌者であるという情報を瞬時に把握し、適切な感染対応を行えるようにすることが必要であると考え、保菌者である利用者の車椅子にマークを設置しました。

1つ目のワゴンの整備に関しては、実施して「使い勝手がよい」という意見が得られたほか、防護用具の無駄な使用・デッドストックの解消などにも繋がりました。

2つ目のマークの設置に関しては、「保菌者であると把握し易い」との意見が得られ、十分な感染対応ができるようになりました。また、利用者自身も気兼ねなくイベントに参加できるようになり、QOLの向上に繋がったと考えられます。更にマークの設置に関しては、当初は病棟内での取り組みでしたが、実施していく中で、徐々に周囲より評価され、昨年10月より、院内の感染マニュアルにも採用され、センター全体の取り組みに発展しました。

今回、雑誌への投稿の依頼を受け、執筆をすすめるにあたり、医療の現場に携わる多くの人が目にするものであるから、誰もが読んで理解できるよう、施設・設備面から利用者の特徴に至るまで、療育という分野についての説明内容を盛り込んでいかななくてはならなかった点に苦労しました。今回の雑誌掲載によって、少しでも多くの方が療育の現場を知るきっかけとなればよいと思います。



### 特集1

#### 経営力アップ

事例1 院内データを活用した経営改善

事例2 職員総会を起点にした病院マネジメントを確立

### 特集2

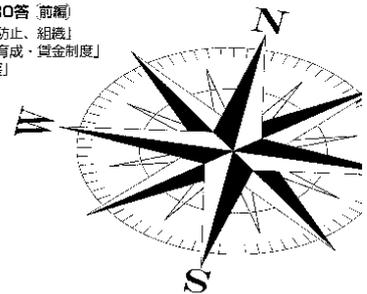
#### 病院の経営課題Q&A

人事関連30問30答 前編

「人の募集・離職防止・組織」

「人事制度・人材育成・賃金制度」

「労務管理」 「看説」



産労総合研究所  
最寄 東京都府中保健所

産労総合研究所発行「病院羅針盤」2017/04/15号掲載

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042 (323) 5115

Fax 042 (322) 6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

[fuchuryo/index.html](http://www.fuchuryo/index.html)